

芦屋「九条の会」9周年記念のつどい

戦没画学生からの伝言 ～いのちの叫び～

画家になることを夢み、生きて帰って絵を描きたいと願いながら戦地に赴いた画学生たち。しかし、その指に絵筆が握られることは二度とありませんでした。青春の輝き、恋人への想い、無理やり引き裂かれたいのち。若き画家たちが残し、遺族の方々が守り続けてこられた作品と遺品の数々が収められた「無言館」。

館主の窪島誠一郎さんにお話しいただきます。

日時 6月28日(土) 14:00～16:00
(開場 13:30)

講師 窪島 誠一郎さん
「無言館」館主・作家

会場 上宮川文化センター
3階ホール
JR 芦屋駅から南東に5分

参加協力費 500円
(高校生以下無料)

手話通訳あり

主催 芦屋「九条の会」
連絡先：片岡 ☎090-7118-2312
後援 芦屋市・芦屋市教育委員会



興柁武 (こうろぎたけし)
「編みものする婦人」油彩・キャンバス
72×53 cm 制作年不詳

窪島誠一郎（くぼしま せいいちろう）さん



1941年東京生まれ。印刷工、酒場経営などを経て、64年東京世田谷に小劇場の草分け「キッド・アイラック・アート・ホール」を設立、また79年長野県上田市に夭折画家のデッサンを展示する私設美術館「信濃デッサン館」、97年に戦没画学生慰霊美術館「無言館」を設立した。執筆活動では実父水上勉との再会を綴った『父への手紙』（筑摩書房）がNHKテレビドラマ化。ほかに『信濃デッサン館日記・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』（平凡社）、『漂泊・日系画家野田英夫の生涯』（新潮社）、『石榴と銃』『鬼火の里』（集英社）、『無言館ものがたり』『無言館の青春』（講談社）、絵本『約束』『いのち』（アリス館）、『「無言館」への旅』『高間筆子幻景』『絵をみるヒント』『父 水上勉』（白水社）などの画家の評伝、美術論を中心にした多数の著書がある。

第46回産経児童出版文化賞、第14回地方出版文化功労賞、第7回信毎賞、第13回NHK地域放送文化賞を受賞。2005（平成17）年、「無言館」の活動で第53回菊池寛賞受賞。

無言館

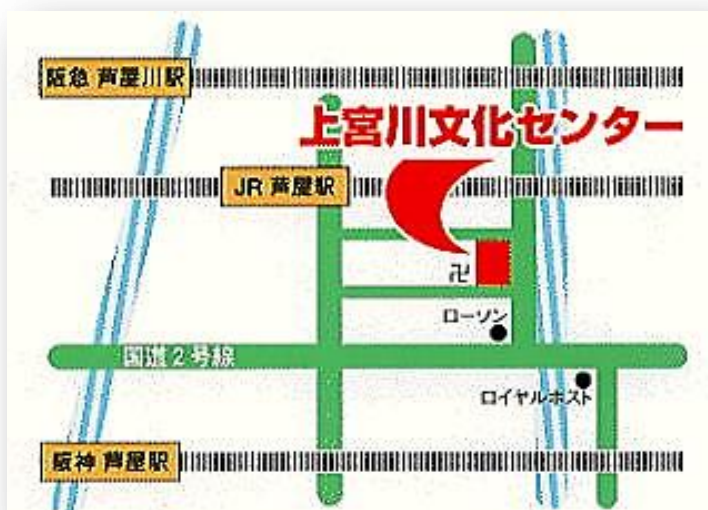
無言館は窪島誠一郎氏により、信濃デッサン館の分館として平成9年に開館した美術館。

第二次世界大戦中、志半ばで戦場に散った画学生たちの残した絵画や作品、イーゼルなどの愛用品を収蔵、展示しています。（上田市役所HPより）

所在地：長野県上田市



《上宮川文化センター アクセス》



JR 芦屋駅から南東に徒歩5分
阪急芦屋川駅から徒歩20分
阪神芦屋駅から徒歩20分

住所 芦屋市上宮川町10番5号